

* 研究授業からの学び *

R4.12.5

No.8

文責 新玉

令和4年 11月15日(火)
西土佐中学校 第3学年 総合的な学習の時間 井上 忠和 田村 恵助 石崎 桂 吉岡 あいり 教諭
単元名 「自分発見 ～地域の思いを継承し、自己の生き方を考えよう」全70時間
小単元1 「西土佐中学校の伝統である和太鼓を通して、地域に貢献しよう」(26時間)

<単元でつけた力>

- ・文化の伝承の大切さを知るとともに、その取り組みが自分自身や、西土佐地域のためになっていることに気付く。
【知識及び技能】
- ・西土佐地域の継承者として、働くことへの思いを伝えるための課題を設定し、その解決に向けて情報を分類したり、効果を考えたりしながら適切な表現方法を組み合わせたりしている。【思考力、判断力、表現力等】
- ・課題解決に向けて、地域と自分の関わりに関心を持ち、将来に向けて今後の学習を積極的に考えようとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

これまで聞いた地域の方々への地域貢献への思いや客観的な意見などから、地域をさらに活性化させる方法を主体的に考えるとともに、自己の生き方や地域の在り方について考えることができる。

本時の評価規準

地域をさらに活性化させる方法を主体的に考えるとともに、自己の生き方や地域の在り方について考えている。【態】

本時の情報活用能力

地域と自分とのかかわり方を考え、これからの自分の将来に関連付けている。

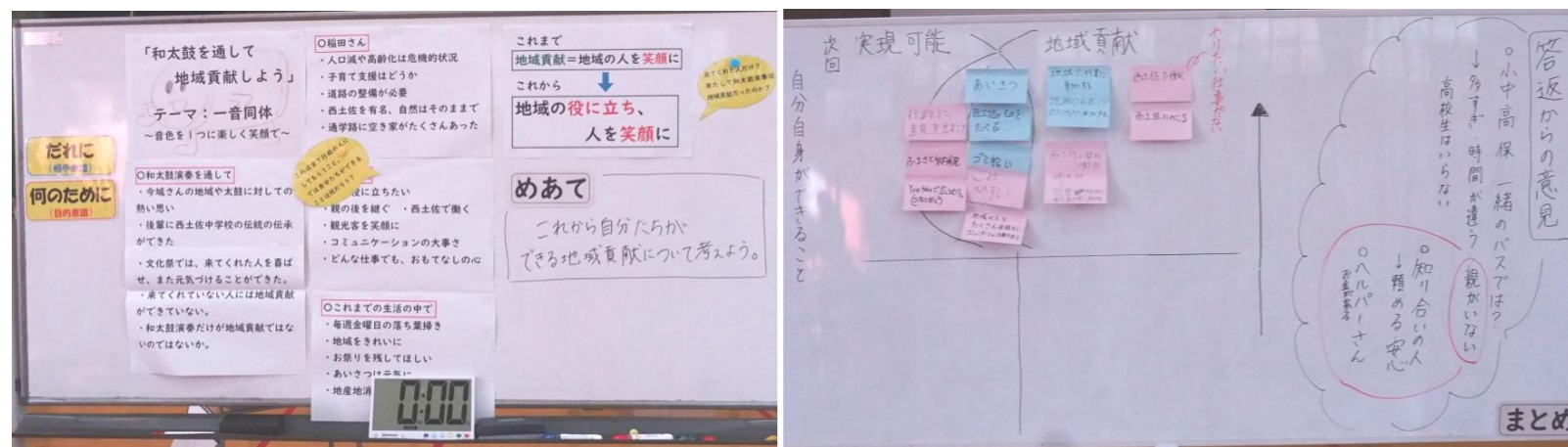
本時の授業風景

地域の役に立ち、西土佐の人に笑顔になってもらうために、地域の行事に参加したり西土佐でとれたものを食べたりするのいいと思う。



自分たちが今できる地域貢献は、気持ちのよい挨拶やごみ拾いをするんじゃないかと思う。将来西土佐で生活するには、やりたい仕事があるといい。

本時の板書



研究協議より(抜粋)

授業者より

- これまでの積み重ねが0になってしまうので、前時までにこれまでの活動を振り返る時間を設けた。
- 自分事として捉えることが弱いためそこに力を入れて活動を仕組んだことで、今日はがんばっていた。
- 自分の考えを書くことが苦手な子ども達だが、本時では自分の考えや理由を付箋に書くことができた。
- 思考ツールを生徒が選べたらよいが、本時は思考の仕方について提案することができていた。
- これまで研究してきたことを、もう少し活かしたらよかった。
- 生徒の意見を引き出すことが難しかった。

参観者より

- 各自が自分事として捉え、グループ協議にも積極的に参加し、生徒主体で活動できていた。
- 思考ツールを生徒が選び、提案して使っていた。付箋を色わけした活用も分かりやすかった。
- 前時の活動との違い、毎時間のつながりが大事。
- 模擬議会の報告が、本時の活動につながっていたか。
- 活性化とはどういうことなのか。
- グループや全体共有の前に、一人一人が自分の考えを持つことができていたか。
- 体験を通した人の思いを交えた理由があればよかった。
- 生徒同士が本気で議論するためには、日ごろの指導や議論するための思い、本音が大事。
- なぜそう考えたのか、思考の残る板書にする。
- 生徒に任せるのではなく、どう導くかが大事。教師の切り返しや意見に対する手立てを大切にしたい。

指導主事より

- ・つながり、深まりがあったかが重要。より子どもたちの学びがよりよいものになっていく。
- ・単元のゴールの「まとめ、表現」の活動なので、これまでの学びを振り返って考える時間だった。これまでの掲示物はあったが、その内容を子どもたちが理解できていたか。
- ・教師の切り返しがあればもっと深まったのではないかと。本当に身につけさせたい力をつけるには、子ども任せばかりではできない。子どもの実態に合わせる必要がある。
- ・まとめの思考を深めるために、体験の前に課題意識をもたせることが重要。意図をもった学びをさせる。
- ・行政の視点や体験をうまく使う等、来年度に向けた計画の見直しをしていくとよい。

授業者のリフレクションより

- ・授業時間外にも生徒同士で地域貢献について意見を交流する姿が見られる等、生徒が自分事として捉え、考えたいと思える課題設定ができていたのではないかと。
- ・単元のゴールイメージを教員全員で共有することが不十分であった。
- ・生徒同士で意見を深めさせるためには、生徒の否定的な意見も踏まえ、教師が意見を振り分ける等の手立てや切り返しも必要であった。

☆これから取り組んでいきたいこと

- * ゴールイメージを常に持ち、授業を進める。
- * 教師の声掛けや切り返しにより、議論の軌道修正をしていく。
- * 思考ツールの積極的な活用、生徒司会を引き続き行う。
- * 全体ではなく、個人に戻り、自分の将来の生き方について考えていく。